

今是非～税への考えが変わった日～

宮崎市立大淀中学校 1年 錦織 慧嗣

8月8日に日向灘でM7.1の地震が起きた時、私は税の大切さを身をもって学んだ。

中学校で、租税教室があった。税金で、公共施設を作ったり、ごみ収集や教育、警察、医療といった様々な公的サービスを提供していることを知った。税の使い方は理解できたつもりでいた。

しかし、テレビなどを見ていると、消費税や増税の話ばかりで、税に対して良いイメージを私はもてなかった。「税金が高い」とよく耳にしていたので、単純に税をなくせば良いのにと思うこともあった。

あの日、夏休みの課題で出た「税の作文」に私は、頭を抱えていたまさにその時、あの地震がやってきた。大きな揺れの後、すぐ家族で近くの小学校へと避難した。

学校に着くとたくさんの方が集まっていたが、あまりに急な出来事なのと、夏休みの学校には、先生も市役所に人もいなかった。津波注意報も出ていたため、不安そうな人たちがやって来て、あたりはざわついていた。そんな時、小学校の教頭先生が学校に駆け込んで来て、集まった人たちにすぐ指示を出してくれた。集まった人たちは、教頭先生が来てくれて、安心した表情をした。私自身も、サイレンが鳴る中だったので、周りの人たちと同じ気持ちだった。少し遅れてきた老夫婦が近所のマンションに逃げようと思ったが、入口に鍵がかかっている入れなかったため、小学校に逃げてきたと話されていた「小学校があつて本当に良かった。」と話されているのを聞いて、学校の先生や市の職員の方など人や公共施設のあることの大切さを実感した。

少し遅れて市役所の方もやって来た。道路が大渋滞で、小学校まで、いつも以上に時間がかかってしまったとのことだった。市役所の方も、家族がいるはずなのに、市民のために、小学校まで向かって来てくれた。私達家族は、津波が学校までに来ないことが分かってから家に帰宅したが、夜遅くまで小学校は避難所として開設されていた。

家に帰って来ると、私は書きかけの作文に取り組んだ。そして、数時間前よりも強く「税金は大切なもの」と考えるようになっていた。幸いにして、私の周りには大きな被害がなかったこの地震で、「もしも」をたくさん考えたからだ。もしも、道路がもろかったら？信号が動かなかつたら？先生や市役所の方が来てくれなかつたら？学校がなかつたら？サイレンが鳴らなかつたら？税金があるから街が作られ、街が動いていると感じた。病気にならないと健康の大切さがわからないように、地震という命に関わる怖い経験をすることで、税によってこの街が作られていることが分かった。そして、税のおかげで私達の生活は豊かになっていて、税金は大切な存在なんだということと税金に対しての本当の意味での理解が深まった。